



▲炊き出し訓練のようす

万一の災害に備えて

本渡南地区災害炊き出し訓練

3月7日、「災害炊き出し訓練」が本渡南地区コミュニティセンターで行われ、地元住民100人が参加しました。同地区振興会と地元婦人会、消防団が地震などの万一の災害に備えようと毎年実施しているもの。参加者は、婦人会の指導を受けながら、災害時でも米を炊くことができる“包装食袋”を使った炊き出し訓練を行ったほか、消防署の職員から心肺蘇生法や消火器の使用方法を学ぶなど真剣な表情で取り組んでいました。

認知症の人や高齢者を地域で見守ろう

新和地域見守り模擬訓練

認知症の人や高齢者などを地域で見守る活動に関心を持ってもらおうと2月21日、「新和地域見守り模擬訓練」が新和町の大多尾地区コミュニティセンター周辺で行われ、地元住民や消防団員など66人が参加しました。

参加者は、市社会福祉協議会の職員から、認知症の人への話しかけ方などの説明を受けた後、声かけ役と高齢者役などに分かれて訓練を実施。「こんにちは。どうかしましたか」と、相手のようすを確認しながら話しかけるなど、熱心に取り組んでいました。



▲声かけの訓練をする参加者

魚がたくさんのお卵を産みつけてくれますように

御所浦小学校児童が“アマモ”の苗を植え付け

御所浦小学校5・6年生43人が3月4日、地元の海岸に海藻の“アマモ”の苗を植え付けました。この苗は、魚の産卵場所やすみかとなる“アマモ場”の復活に取り組む、天草漁協御所浦支所・壮青年部がアマモの種を昨年11月に同校へ提供し、児童たちが育てたものです。約700株を一つひとついねいに植え付けた児童たちは、「アマモが大きく育ててうれしかった。たくさんの卵を産みつけてほしい」と話していました。



▲アマモの苗を植え付ける児童

男女共同参画社会についての理解を深めよう

2015天草つのでフェスタ

男女共同参画社会についての理解を深めてもらおうと2月21日、「2015天草つのでフェスタ」が天草市民センターを主会場に開かれ、350人が来場しました。地域振興に詳しい(株)日本総合研究所の藻谷浩介さんが、天草地域の活性化などについて講演。「子育てをしながら働く若い世代を呼び寄せ、人口を増やすことが大事」などと話されました。また、中学生による人権作文の発表や福祉サービスの利用法を学んでもらう寸劇などが行われました。



▲講演をする藻谷さん

教会とっしょに大事にしていきます

崎津教会で畳替え

全国でも珍しい、礼拝堂が畳敷きになっている河浦町の崎津教会で2月26・27日、「畳替え」が行われました。全国の畳店14店で作る畳屋道場が、国産の畳に関心を持ってもらおうと無償で実施したものです。県内外の畳職人13人が、62枚の畳表の張り替えを手縫いで実施。翌28日には、教会関係者や畳職人などが参列して奉納式が行われました。崎津教会信徒会代表の海付親治さんは、「とても感謝しています。教会とっしょに畳も大事にしていきます」と話していました。



▲畳表を張り替える畳職人

牛深の海の幸を堪能！

うしぶか海食祭2015

2月22日、「うしぶか海食祭2015」がうしぶか海彩館で開かれ、観光客など約2,000人が来場しました。同祭実行委員会が、牛深の食のブランド化と地域活性化を目的に、平成23年から毎年開催しているものです。会場では、特産のきびなごを使った天ぷらや海鮮丼、ブリの刺身などの販売が行われ、来場者は牛深の海の幸を堪能していました。また、ステージでは牛深ハイヤ踊り創作コンテストも行われ、大いににぎわっていました。



▲ブリの刺身の販売のようす